

## 令和4年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県北会場

#### 科目 ⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

- ◆ 放課後児童クラブで過ごす子どもに一番大切なのは「自ら進んで通い続ける」ということだと思います。学校とは違う楽しさや喜びを味わえるような環境づくりができるようにし、「今日は何をしようかな」「誰と遊ぼうかな」と期待をもって過ごせる場所であればいけないと思いました。私たち支援員の役割は大きく、子ども一人一人に寄り添った支援を続けていくことで、子どもたちが毎日笑顔で通い、過ごせる場になっていくと思いました。
- ◆ 子どもが放課後児童クラブに自ら進んで通い続けるためには、支援員と保護者が連携して支援することが大切なんだと再認識することができました。そのためには、保護者と情報を共有し、信頼関係を築くことが大事だと改めて感じました。また、主観的な見方をせず、聞く、見る、見守るという事を大切に、子どもたちとの信頼関係を築いていきたいと思いました。
- ◆ 講義を受けて、自分が働いている放課後児童クラブの課題を見つけることができました。高学年になると納得してクラブに来ている子が少なくなり、不満や反抗的な態度が出てくることもあります。私たち支援員から、主体的な遊びや過ごし方ができるように援助や準備をすることで、子どもたちに変化が出てくるのではないかと思います。声かけの言葉はどうか、基本的な生活習慣の習得のために根気よく声をかけているかを、今一度振り返ってみたいと思います。
- ◆ 本科目を通じて一番印象に残ったフレーズが「子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助する」でした。子どもが安心感をもつてのびのび過ごせる環境を整えることが、結果的に「子育てと就労の両立」、保護者への援助につながるのだと思います。学年という大きな括りではなく、子どもを個として捉え、丁寧に発達や成長を理解し関わることの重要性も再認識できました。
- ◆ 子どもたちが安心して過ごすことができる環境を整えることの大切さを学びました。毎日様々な学年の子どもが利用する中で、発達段階の個人差に合わせた支援と、その日によって元気が無い子や困っていることを言えずにいる子の心身の状態に合わせた支援をしていくためにも子どもたちや保護者との関わりが大切であると学びました。心身的・精神的・社会的な配慮を忘れず毎日の支援を続けていこうと思いました。